

なみまるくん

うみ・なかま
コミュニケーション

Hokkaido Gyoren Magazine Number 272 June 2011

6



特集

海岸線の仲間たち

北海道ぎょれんウェブサイト
<http://www.gyoren.or.jp/>

- 1 海ひと夢
石狩管内漁業士会 指導漁業士 中井寿美子さん

- 2 **特集** 海岸線の仲間たち

- 6 なみまる社会科見学

- 9 舵取り目指して

- 10 浜の家族物語
日高中央漁協 小沼 謙太さん ご家族

- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム

- 12 平成23年度 漁協購販推進全道地区委員長会議開催

- 14 なみまるインフォメーション

- 16 おまかせ設計センター

- 17 浜だより

荷捌き所新築中の浦河の港



ありがとう感謝

石狩管内漁業士会 指導漁業士 中井 寿美子 さん

長年にわたる資源増大への 苦勞が実る

私は第16回全国青年・女性漁業者交流大会において、地元ニシンの資源増大と魚食普及を目指した取り組みについて発表する機会をいただき、大変良い経験をさせていただきました。

私たちのニシン漁は、次年に資源を残すため、刺網の目合いを2寸目以上、漁期も決めています。「魚がいるのに獲れない」「既存の網を使用できない」などの反発もあり、浜挙げてのニシンへの取り組みは、長年にわたる大変な苦勞がありました。その結果、近年のニシンの資源増大と漁獲に繋がり、乳白色の群衆が見られるまでになっています。

漁師の夫婦は運命共同体

ニシンの時期は厳冬期で、沖は時化早い日本海です。ニシンが続くと休む間はなく網を刺しては揚げたの繰り返しです。陸で待つ身として、沖



での体調管理や海難事故の心配は尽きません。漁師の夫婦は運命共同体です。安全を祈りながら日々父さんに網を渡し受け取っています。

我が家はホタテが本業で、2年貝を宮城の養殖業者に販売していました。この震災に遭われ大変心配していましたが、「宮城に海がある限りやるんだ」という意気込みを伺い、心強く思っています。養殖が再開した暁には、いち早く貝を届けるべく万全の体制を整えています。

「ありがとう」と 感謝を表しましょう

夕張の炭鉱出身の私は、17歳で厚田に嫁ぎました。結婚前は魚を触ったことも無く、いただいた大きいマスをただ散らかしてしまい、母に叱られたこともありました。今では私も料理教室で、おいしいニシンの刺身を食べてもらうきっかけになればと、魚の捌き方を丁寧に教えています。

「ありがとう」を北海道の人はあまり使いません。私も以前は恥ずかしくて「どうも」とか「すみません」を使っていました。「どうも」が「ありがとう」に変わっただけで感謝の気持ちがより伝わりますし、「ありがとう」と言われて嫌な気持ちにはなりません。ぜひ「ありがとう」と言って感謝の気持ちを表してください。「ありがとう」は人と人をつなげる大切な言葉だと信じています。

海岸線の仲間たち



ホタテの稚貝を積み込んだ船は次々と沖へ向います

連載企画「海岸線の仲間たち」。
シリーズで浜の皆さんをまるごと
紹介しています。第10回は北見管
内紋別漁協です。



紋別漁協
阿部組合長

漁業協同組合運動の先駆けとして

紋別漁協は昭和24年に発足、昭和27年には、
オコック、紋別両機船底曳網漁協との統合に
よって、沿岸と沖合漁業者が一体となった組
合が出来上がりました。昭和30年代には漁業
不振に陥り、漁協経営も困難を極め、昭和36
年に漁協整備促進法に基づく再建整備計画の
認定を受け、再建整備により難局を乗り越え
てきました。

紋別漁協は、漁業協同組合運動の先駆けと

紋別漁協(平成22年12月末現在)

- 組合員数：176
(うち正組合員166)
- 役員員数：65名
- 本所所在地：紋別市港町6丁目
5番2号
- 販売事業取扱高：78億円
- 主要魚種：ほたて、鮭、助宗等

して語り継がれており、組合員は漁協を大切
にする気持ちが強いそうです。それは、出資
配当と事業分量配当金全額を還流増資に回し、
漁協の経営基盤強化に向けられることにも表
れています。

沖合漁業が 水揚げ100億の時代を築く

紋別漁協を語る上で欠かせないのが、底曳
網を中心とした機船漁業です。昭和40年代以
降、沖合底曳網漁業で水揚げされる中心魚種
は、スケトウダラ、サンマ、ズワイガニなど
でした。その当時の紋別には、大型のすり身
工場が7件、充実した背面施設を完備した港
であり、すり身、すき身の生産量は全国一、
全道の沖底船が集結する一大基地になってい

さわやかさん



ほらぐち
洞口 ふうか
（信用部・20歳）
風香さん

昨年から紋別漁協で働く洞口さんは平成3年生まれ、今年成人式を迎えます。信用部で窓口業務を担当し、これから新たな仕事も増えてくるとのこと。読書が趣味の洞口さん、「窓口で人を待たせることなく手際よく仕事ができるようになりたいですね。」と笑顔で話してくれました。



「紋冷」の愛称で知られるホタテ専用加工処理施設

ました。この頃市場事業を中心に取扱高も100億円を越えていました。

200海里時代の

到来とともに沖合漁業が衰退

昭和52年、200海里排他的経済水域設定に伴い、紋別も例外なく沖合漁業からの撤退を余儀なくされ、沖底船や北転船の減船が進み、ズワイガニの船は全船撤退する事態となりました。全盛期には全道から多数の入会船がありました。減船が進められた結果、平成22年末現在、紋別の沖底船は4隻を残すのみとなっています。減船に伴う水揚げの減少も顕著で、昭和52年の160億円台をピークに、平成7年には100億円を下回り、その後も水揚げの減少は続きました。

ホタテを中心とした

育てる漁業が主力に

沖合底曳網漁業の衰退とクロアスするように、育てる漁業であるホタテ漁業が主力になりつつありました。従来のホタテ漁業は、自然のホタテを漁獲しており、昭和48年頃まで年間2〜3千トンの水揚げに留まり、資源が減少すると禁漁の措置が取られていました。昭和51

年からホタテ漁業を再開、稚貝放流技術の進歩も重なり、放流事業の拡大に繋がりました。現在では約3万トンの安定生産で推移し、さらにサケマスふ化事業にも力を注ぐなど、育てる漁業が組合運営の主軸となってきました。



平成21年に完成した高度衛生管理型荷捌き施設

ホタテ漁業基盤強化で

組合員の生活を安定させたい

「紋冷」の愛称で知られているホタテ専用加工処理施設が平成5年に完成、平成15年には工場を増設し2機目のトンネルフリーザーを

導入、玉冷生産日本一の工場は、今年度は1万6000トンの生産計画を組んでいます。アメリカ向けHACCPは取得済ですが、EU・HACCPの取得についても検討中です。平成21年、近未来型省エネ対応のホタテ操業船を導入、老朽化が進んでいた市場は、屋根つきの高度衛生管理型荷捌施設として生まれ変わりました。このように紋別漁協では、多くの組合員が関わるホタテ漁業の基盤強化を進めながら、今後とも組合員の生活を安定させたいと考えています。

地元のお祭り 中軸を担う青年部活動



紋別漁協
青年部長
松井 謙典さん

地元のお祭りでは、いつも中心で動いている紋別漁協青年部、そのリーダーを務めるの

が、今年、部長になって2年目を迎える松井さんです。松井さんは、ホタテ稚貝放流作業や家業の底建網をメインに、冬の休みを挟んで仕事と青年部活動を両立しています。

毎年2月上旬に行われる「もんべつ流水祭り」では、青年部で出店しており、組合の冷蔵庫を間借りして作ったカレイやホッケの一夜干し、青年部特製の力ジカ汁も販売しています。また、秋田県男鹿半島に伝わる伝統的な民族行事である「なまはげ」に青年部員が扮し、祭りの会場に現れます。これは歴代の青年部員が担ってきたイベントで、さらに網を組み合わせて出来た衣装は紋別流、そして青年部に昔から伝わるなまはげの面も迫力満点です。

紋別、沙留、雄武漁協の3青年部では、休止していた交流が3年前に復活、ソフトボール大会やその後のバーベキューで親交を深めています。「青年部は自分のやりたいことができる場です。もっと若い人たちがアイデアを出し合い、勉強会や視察旅行を行うことで視野を広げたいですね。」と今後の活動に意欲を見せる松井さんは、後輩たちの活躍に期待を寄せています。



もんべつ流水祭り名物「なまはげ」



全国的にも珍しくなった「樽みこし」を担いで青年部が練り歩きます

海岸線の仲間たち

地域に根ざした息の長い女性部活動



紋別漁協
女性部長
佐藤 勝子さん

現在の部員が42名の紋別漁協女性部は、女性部として赤十字奉仕団に入会しており、昨年30年という長年にわたる功績により表彰を受けました。

紋別漁協女性部の植樹活動は、「婦人部」と呼ばれていた昭和38年から始まり、地元の山や学校への植樹など、奉仕の精神で地域に根ざした地道な活動が続け、平成8年からは「オホーツク魚の市民植樹祭」と名づけられ、市民の活動へと成長しました。またこの植樹祭では、植樹に参加した皆さんを、浜の母さんの味でもてなしています。植樹後に特製のホタテの貝焼きやかに汁などをふるまい、この味を毎年楽しみにしている市民もいます。

また交通安全を願う活動として、春先など

の車が多くなる時期にあわせて年の回ほど「よろこんぶ作戦」を展開しています。地元の警察と連携し、「よろこんで帰ってね」という思いを込め、「よろこんぶ」シールを貼った袋詰めめの昆布を、道行くドライバーに手渡しています。さらに女性部主催の料理教室を実施、長年地元の高校生に地場の魚を広めています。自分で捌いた魚で作る手作りのすり身は、その美味しさにびっくり、最初は魚が苦手な生徒たちも、とても喜んで食べてくれます。

「女性部活動は皆さんの協力が不可欠で、部員確保が課題です。」と話す佐藤さん、紋別漁協女性部は、息の長い活動をこれからも継続していきます。



副部長の池森スサ子さん(写真右)と渡辺玲子さん(写真左)とともに



地元の高校生にも好評「料理教室」



「よろこんぶ作戦」では、道行くドライバーに「よろこんぶ」を手渡しています



なみまる社会科見学

第5回

地方独立行政法人

北海道立総合研究機構 工業試験場



地方独立行政法人
北海道立総合研究機構 本部

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
産業技術研究本部 工業試験場

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
産業技術研究本部 ものづくり支援センター

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 工業試験場

概 要

- 住 所 札幌市北区
北19条西11丁目

北海道における

工業技術の中核機関

工業試験場は、大正11年5月、当時の農商務省から認可を受け、北海道工業試験場として設立され、時代とともに組織改革を重ね、昭和52年11月、現在地（札幌市北区）に新築移転、昨年4月からは地方独立行政法人化

「なみまる社会科見学」では、漁業や水産に係る施設などを訪ね、ご紹介するコーナーです。第5回は札幌市の北海道大学に隣接する、北海道立総合研究機構工業試験場を訪れ、見学させていただきました。

多岐にわたる技術研究・

技術支援を行っています

約100名の職員のうち研究職は80名ほどです。近年は研究チームが増える傾向にあり、特に民間企業との共同研究が増えています。そのため研究チームは年間100本越え、一人当たり平均1.5本の研究にあたる計算になります。

道内企業からの相談件数は年間3500件にのぼります。その内容も多種多様で、年々複雑になっています。さらに企業に職員を派遣して一定期間開発する事業、人材育成のために企業からの研修生や大学の卒業研究生も受け入れており、今後は、学生の受け入れも含めて、相互の技術協力を深めていきたいと考えています。

されています。この工業試験場は、北海道における工業技術の中核機関として、産業技術力向上の牽引役として、長年その役割を果たしてきました。主な業務は研究開発、技術支援、技術者の養成（人材育成）、技術情報の提供、連携・交流の5つに分けられます。

今回は工業試験場の研究の中で、水産に関わる3つをご紹介します

【秋鮭身色計測装置】



情報システム部計測・
情報技術グループ
宮崎 俊之さん

◎秋鮭の身色判定で より付加価値を高める

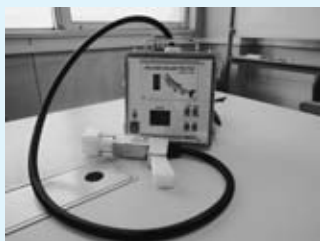
北海道産の秋鮭はその多くが輸出されており、レッド、ピンク、ホワイトと3種類の身色基準を設定し、基準に基づいた価格で取引されています。この身色を正確に判定することとは熟練者でも難しく、道漁連からの要請があり、ドレスのまま鮭の身色を正確に判定するアキサケ身色計測装置研究開発に取り組み始めました。

平成17年から研究を開始、平成22年には「アキサケ身色計測装置の製品版プロトタイプ機」を開発しました。装置には光を作る「光源」、鮭に刺す「光ファイバプローブ」、光を分析する「分光器」、身色を判定する「マイコン」が搭載されています。光ファイバプローブを秋鮭に刺し、先端から光を出して、その反射光を取り込み分光器で解析、これまで数年間にわたって蓄積した熟練者の判断データと照

合する事で、瞬時に身色を判定します。

鮭の専門家も交え、秋鮭内部の水分や骨、筋などの影響を受けず、また秋鮭の商品価値を損わない測定方法を開発、加工現場では装置を肩にかけて鮭の身色を判定するテストを重ねた結果、計測の精度、使い勝手ともに高い評価を得ました。

鮭の身色は微妙な違いしかないので、人の眼では違いを見分けることが難しい場合があります。分光器により、この違いを細かく識別することが出来れば、現在の3段階からさらに細かい判定が可能になります。システムとしての性能をそのまま活かし、低コスト、サイズを小さくする製品化研究を進め、将来的には脂肪含量の測定、他の魚種への応用なども考えています。



初期の装置（上）に比べてだいぶ
コンパクトになりました（下）



加工場での
試験の様子

【昆布作業省力化スーツ】



製品技術部デザイン
人間情報グループ
前田 大輔さん

◎「腰に優しく」人に優しい技術を応用

腰をかがめた状態で長時間作業するキャベツの収穫作業は、腰の負担が大きく、私たちはこの作業を軽減するためのアシストスーツを開発しました。この技術を漁労作業にも応用し、昨年から3年間の予定で昆布用のアシストスーツの開発に取り組んでいます。

昨年、長昆布と利尻昆布の昆布干し作業における体の情報を科学的に測定し、アンケート調査を行った結果、腰の負担を感じている方が多いことが分かりました。そこで前かがみ姿勢から起き上がる際の腰の負担軽減の研究を進めました。長昆布干しの作業では、昆布を引きずって移動する動作が入ります。一方利尻昆布では移動が少なく、連続して1枚ずつ干し、同じ姿勢が続きます。両者の動作の違いも考慮して試作しました。

この省力化スーツは、昆布干しの作業で前かがみになった時に体を起こす力（復元力）を使って、腰の負担を約2割軽減するものです。更に昆布の作業では曲げる動作が入るので、複雑な曲げも考慮しなければなりません。そのため従来の板バネではなく、片側6本の細いバネを配置することで、ねじれにも対応しかつ力を発揮します。さらに通気性を高めるなど、装着することで作業の負担にならないような工夫も凝らされています。今後は作業現場での実証試験により改良を図るとともに、船上での引き揚げ作業など、腰の負担を軽くする技術の応用の幅を広げていきたいと考えています。



片側6本のバネを使用



昆布干しの作業は引きずったり(左)腰を曲げて並べる作業(右)など複雑な動きが特徴です

【サケ脱血装置】

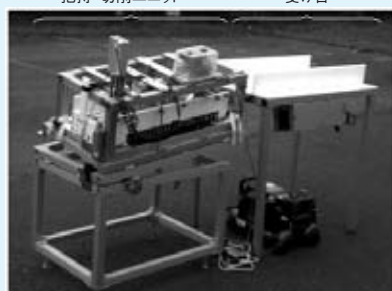
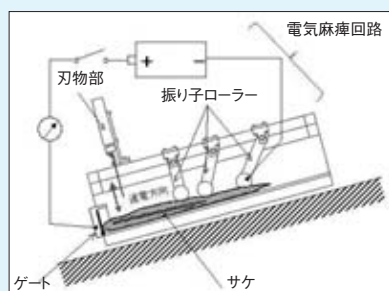


情報システム部電子・機械システムグループ
多田 達実さん

◎高効率でコンパクトな 秋鮭活締め装置を開発

平成20年から釧路水産試験場と共同研究で、鮭の脱血装置（活締め装置）の開発に取り組んでいます。道産秋鮭の品質向上を目指し、船の上という限られたスペースを有効活用し、安全かつ効率的に活締めを行う研究を行ってきました。暴れる鮭を装置でおとなしくさせるために、「電気麻痺」を採用しています。（現在特許出願中）魚に弱い電流を流すと、その間しばらくして身動きできなくなります。また、振り子式のローラーで魚の大きさに合わせて固定させる方法を採用、装置全体を前傾勾配させ、鮭を入れると滑るようになり、頭が電極に触れ鮭が沈静化、ボタンを押すと刃物が下りてくるという、従来のものよりも簡単な仕組みが出来上がりました。

より確実に切れ目を入れ脱血させるため、水産試験場で切る部位を調査、鮭の左右8枚ある



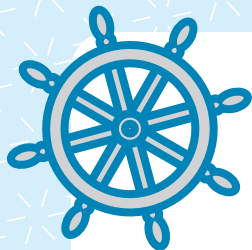
脱血処理後のサケ



開腹時出血が極めて少なく、白子、卵ともに血液のにじみ無し

これらの付け根に弓状の硬い血管（鰓弓）があり、そこを一本でも切れば良いことを突き止めました。原寸大の鮭の模型を作り、確実に切る方向を探る実験を繰り返し、活締め用のV字型の刃も製作しました。

更に船上での検証を行った結果、この装置を使った活締めは、確実に行われていることが分かりました。今後は一人で活締め作業が行えるよう自動化を進め、更にコストダウン、軽量化、耐久性、安全性の確保と、早期の実用化を目指し、改良を加えていきたいと考えています。



舵取り目指して 第16回



こばやし
小林 龍さん

浜の若き後継者を紹介するシリーズ「舵取り目指して」。第16回は、5月9日に入所式が行われた北海道立漁業研修所を訪ね、将来の漁業者を目指す受講生さんにお話を伺いました。

プロフィール

平成4年10月生まれの18歳。北海道虻田郡知内町出身。地元ではホタテやカキの養殖漁業、底建網漁に従事する予定です。



力をつけていつか父の後を継ぎたい

父や母の実家も漁師という漁師一族に育った小林さんの家では、ホタテ、カキの養殖、知内特産のマコガレイを中心とした底建網漁を営んでいます。以前は家族で乗り組んでいましたが、最近では父一人で沖に出ることが多くなってきました。

小学生の頃から陸仕事を手伝ってきたという小林さん、たまに沖について行くと、自分が出来ることの少なさに愕然としたそうです。「漁業に必要な技術やロープワークを身につけたい、力をつけていつか父の後を継ぎたい。」と考えるようになりました。

小林さんの父は、当時函館にあった漁業研修所の修了生で、龍さんが漁業への志があることを知ると、研修所に入ることを勧めてくれました。

父と肩を並べて漁に出たいですね

学生時代はバドミントンに打ち込み、「努力は裏切らない」という言葉を信じ練習を重ね、結果を残してきました。「漁師の仕事は自分の努力した分だけ結果に繋がることが魅力です。」という言葉通り、小林さんは漁師として根気強く取り組もうとする意気込みは十分です。



5月9日、小林さんを含む38名の受講生が入所式に臨みました

「良い貝を育て皆さんに食べてもらえるよう完璧を目指したいです。」と家業への思いは強く、沖で作業に集中しすぎて、父親から「周りが見えていないから危ない。」と注意を受けたこともあります。「いつか父と肩を並べて漁に出たいですね。」と話す小林さん、陸仕事の手伝いから始まった小林さんの漁師への思いは、この春研修所の門をくぐり、実現へと一歩近づきました。



これから半年寮生活を送る海友寮

札幌ドームのマウンドに立つ
朱希君（小学6年生当時）



写真の後列右側から、小沼謙太さん(33歳)、真帆さん(34歳)、田中勇二さん(61歳)、
前列左側から、朱希君(12歳)、田中美鈴さん(62歳)、佑羽君(9歳)、快登君(7歳)

浜の家族物語

今回からスタートする「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場するご家族を紹介します。第一回は、日高中央漁協の小沼(こぬま)さんご一家です。

「じい」がかっこよくて 漁師も良いなと思った

浦河へ向かう国道235号線、海岸沿いに上質な日高昆布の特産地、浦河町井寒台地区があります。昆布、タコ縄、業を営んでいる小沼さんご一家を訪ねました。

ご主人の謙太さんは苦小牧出身、札幌の建築関係の専門

学校を卒業後、地元で大工の仕事に就き、真帆さんとの結婚後も続けていました。「浦河にきているうちに、じいがかっこよくて、漁師も良くなっていると思いました。」と話す謙太さん、7年前に奥さんの実家である浦河で漁師になることを決めました。「まさか実家に戻ってくるとは思っていませんでした。」と笑う真帆さんは、父の仕事を手助けしてくれる謙太さんに、いつも感謝しているそうです。家の中では「じい」と呼ばれているおじいちゃんの田中勇二さんは、謙太さんの目標であり頼れる親方。おばあちゃんの美鈴さんは看護士さんで、ずっと伸びた背筋が印象的でした。

舵をしつかり持つて 親方を越えていきたい

昆布採りを手伝ってくれるという息子さん三人は野球少年で、長男の朱希君は、小学

校ではエースで4番を任されていて、全道大会準優勝の実力者、札幌ドームのマウンドを踏んだ経験を持ちます。次男の佑羽君は小学校4年生、すでに少年野球チームで4番を打ち、三男快登君は小学校2年生、お兄ちゃん達に影響を受け、少年野球チームで頑張っています。

漁師の経験が無かった謙太さんは、一時期定置の船に乗り組んでいましたが、2年程で家に戻って手伝うことになりました。「よそで苦労した分、舵を安心して任せられる。」と話す田中さんは、漁師の姿と「大漁」という希望を謙太さんに示しながら、一人前の漁師として自分を超えて欲しいと願っています。「漁は難しさと楽しさ半々です。舵をしつかり持つて親方を越えたいですね。」と笑顔で話す謙太さん、漁と子供達の野球観戦と忙しい日々が続きます。

《文／菅野 厚》



プレイタイム

クロスワードパズル

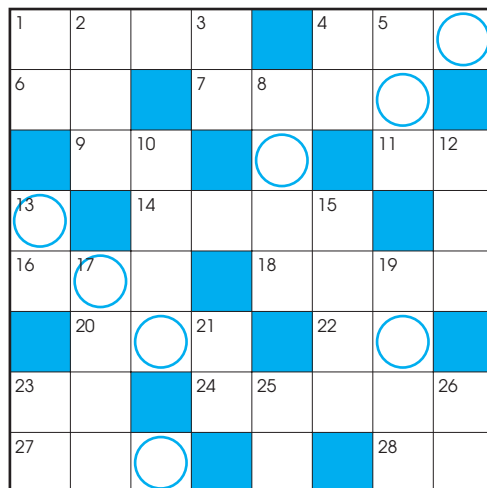
次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。今月結婚する花嫁は幸せになれると言われてますね。

タテのカギ

- ①雨上がりの空にかかる橋
- ②魔法○○○、お○○○、○○○勝手
- ③のど自慢が得意なもの
- ④腐りやすいことをなにが早いと言う？
- ⑤この前線が居座ったら梅雨です
- ⑧マジシャンがみせる芸
- ⑩青年のこと
- ⑫これが鳴いたら雨が降る
- ⑬○○かま、○○大根、○○の照り焼き
- ⑮黄色いうちは半人前
- ⑰相撲の取り組みの最後を飾る○○○○式
- ⑲ギリシャ神話では美の女神
- ⑳海の男がオカと呼ぶところ
- ㉑白石と黒石の陣取りゲーム
- ㉓そこに○○があるから登る
- ㉕臼とセットで餅つき

ヨコのカギ

- ①栃木県の東照宮がある観光地
- ④やせてる人はこれがみえる
- ⑥⇄定価
- ⑦三つ子の○○○○百まで
- ⑨一念○○をも通すと言います
- ⑪さなぎから変身して羽が生えること
- ⑬漫画本のこと
- ⑮日光東照宮にあるのは「鳴き○○○」
- ⑰ルーージュを塗るところ
- ⑲5月4日は何の日？
- ㉑走り高跳びで跳び越えるもの
- ㉓釣り○○、刺繍○○、ミシン○○
- ㉕腹が立って口惜しさのあまり涙を流すこと
- ㉗オリンピックの輪
- ㉙親の○○をかじる



正解者の中から抽選で5名の方に図書カードを進呈いたします。ハガキ、FAXもしくは電子メールに答えと浜のたより及びご意見・ご提言など、住所・氏名・年齢を書き添えて、どしどしご応募ください。

応募いただいた方の個人情報は、クイズ当選者への図書カード進呈と、広報なみまるくん「浜だより」の、おたより掲載（氏名・市町村名）にのみ、使用いたします。

応募先

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道漁業協同組合連合会 総務企画部 広報担当
* FAX番号 011-(242)-3543 (6月15日消印有効)
* 電子メール info@gyoren.or.jp

解答 となります。

ウ	エ	コ	ミ	タ	ウ	エ
ノ	リ	ズ	ツ	キ	ン	
ハ	ツ	バ	メ	サ	カ	
ナ	キ	ム	シ	ハ	ツ	ク
カ	ジ	ヨ	ウ	ガ	キ	
ウ	ン	ウ	ワ	キ	ゴ	
サ	シ	ミ	バ	カ	リ	
ギ	ン	キ	ヨ	ケ	ン	

5月号の解答と当選者 シンリョク

(北 斗 市) 福永 美愛さん
(厚 岸 町) 小島 史香さん
(初山別村) 細野 京子さん
(根 室 市) 高橋ナツ子さん
(豊 浦 町) 竹島 暁子さん

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5か所の異なるところがあります。
さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは17頁にあります。

全道地区委員長会議開催

漁協購販推進全道地区委員長会議が開催されました。前年度の



会議冒頭、ぎよれん西副会長の挨拶があり、続いて、ぎよれんの中期的事業推進方向・平成23年度事業計画について説明がありました。協同組合運動啓発DVD「協同の力」を上映、系統ブランド資材評価委員会の設立、石油情勢の説明など、盛りだくさんの内容となりました。会議では、3月に発生した東北地方太平洋沖地震による震災の対応についての説明があり、特に福島原発事故への対応では、各委員から放射能やその風評被害に対する不安を訴える声が相次ぎました。最後に、平成23年度の購販推進委活動について、全会一致で承認されました。

【平成22年度組織強化活動結果】

1. ぎよれんの組織強化活動結果

- (1) 漁協役職員・漁業者を対象とした教育活動の充実を図り、漁協役職員研修、漁業者研修を実施、合わせて約2550名が受講しました。（前年約2200名）
- (2) 各種会議の適宜開催による情報交換推進と組織的連携強化では、地区組合長会、漁協購販推進委員会（全道地区委員長会議、漁協委員長・事務局長会議、漁協購販推進委員会）などの各種会議を開催しました。
- (3) 事業と連動した漁協購販推進活動の活性化に向けて、購買事業と連動した「系統ブランド資材」の普及推進を行いました。地区別使用結果を活用し、購販推進委員会等で販促活動を展開しました。
- (4) 女性連・漁青連と連携して、「食育」をテーマとした魚食普及と漁業への理解促進活動を行いました。女性連とは昨年100回を

迎えた「浜のおかあさん料理教室」（計5回）漁青連と「漁師さんの出前授業」（計2回）を実施しました。

- (5) 広報誌「なみまるくん」、ホームページ等を通じて、青年部、女性部活動や浜の声を掲載し、情報提供機能の強化を図りました。

2. 漁協購販推進活動結果

- (1) 漁協購販推進委員会を開催した漁協は、前年の38から41へ増加しました。委員会の開催率は55%に留まり、開催する漁協が固定化する傾向にあります。
- (2) 三委員会合同研修大会は、全道で1160名が参加、事業の垣根を越えた情報交換・相互交流を図られました。
- (3) 購販推進委員会と連携し、専用力タログを漁協委員長へ配布し、系統ブランド資材の取扱拡大を図りました。
- (4) 漁協購販推進委員長の情報提供強化のため、地区別委員長・事務局長会議に出席し、活動方針の徹底と漁協委員会の開催を推進しました。また、漁協委員長への情報強化のため、ダイレクトメールによる各種資料を提供しました。
- (5) 協同組合啓発DVD「協同の力」を作成し、諸会議等において上映することにより、協同組合運動の推進活動を図りました。

平成23年度 漁協購販推進

5月16日（月）ぎょれん本所会議室において、平成23年度組織活動報告及び本年度の組織強化活動方針をご紹介します。



●●●●● 平成23年度組織強化活動の具体的な推進事項 ●●●●●

(1) ぎょれん購買部門との連携による系統ブランド資材評価委員活動等の実施

① 漁業経営コスト削減に向けた系統ブランド資材の品質向上と普及活動強化を図るため、漁協購販推進委員長を座長とした資材評価委員会をスタートさせ、具体的な取扱推進に取組む。

② 漁協購販推進委員長・マリノサポートと連携し、三委員会合同研修大会場での販促や各種研修会場での展示会を継続開催する。

(2) 協同組合運動の大切さについての啓発活動の推進

● 協同組合啓発DVD「協同の力」の各種会場等における全道の漁業者への上映



(3) ぎょれんと漁協購販推進委員とのパイプ役である漁協委員長・地区委員長への情報提供の継続

系統ブランド資材



● 各種水産物の流通情報、協同組合運動に関する参考資料、漁業環境に関する各種情報を提供する。

(4) 各漁協に対する一日組合学校、三二勉強会の働きかけの促進及び講師の派遣。

● 本道漁業の現状と課題

● 水産物の需給動向と消費の変化への対応

● ぎょれんが取り組む「漁業環境保全対策」

【新規テーマ】

● 「漁業協同組合運動の歴史」と「協同の力」

なみまる

インフォメーション

Information 1

平成 23 年度漁民の森づくり推進協議会・道女性連植樹記念看板除幕式

植樹活動の原点を見つめ直し 思いを伝えていきたい

5月10日（火）に札幌市の信漁連本店会議室において、各地区女性連会長をはじめ、各関係機関から25名が出席して、平成23年度漁民の森づくり推進協議会が開催されました。会議では、平成22年度収支決算報告、平成23年度収支予算案と事業実施計画について協議しました。昨年は延べ3千4百人余りの人が参加し、全道で約1万5千本を植樹しました。平成23年度の事業計画では、今年度もパンフレットを作成するほか、植樹活動をPRするホームページの内容について、従来の子供向けの内容に加え、中高生向けのページを新たに作成する予定です。

会議終了後には、札幌市南区にある豊平川さけ科学館に移動し、お魚殖やす植樹運動の記念看板除幕式を行いました。この記念看板は、道女性連50周年記念事業の一環として設置されたもので、昭和63年にこの場所に松を植えたことが、現在の植樹活動の原点であることを記念しています。この日、道女性連会長を勇退した新谷前会長が「ここから、北海道の漁協女性部員たちの植樹活動への思いを伝えたい。」と挨拶、これまで23年に渡り続けられてきた植樹活動に敬意を表しました。



今年も各漁協での植樹・保育活動を支援します



看板には「百年かけて百年前の自然の浜を!」という女性部の植樹活動への思いが刻まれています

Information2

第49回北海道漁業協同組合長会議第1回実行委員会開催

東日本大震災水産被害対策を 特別決議案として提出

5月19日（木）、札幌市のぎょれん第1会議室で、第49回北海道漁業協同組合長会議第1回実行委員会が開催されました。昨年行われた決議の実行経過を説明後、今年会議に提出する議案を審議しました。中でも原発による放射性物質災害防止に関して、原発の安全対策の強化という表現にとどめず、国のエネルギー政策の転換や建設中の原発差し止めについても言及すべきかなど、活発に議論されました。本年度は東日本大震災の水産被害対策と、本道漁業の振興策を次期水産基本計画へ反映させるための政策提案を中心に、特別決議案に東日本大震災水産被害対策について、決議案には4議案を提出、6月16日開催の第49回北海道漁業協同組合長会議で決議される予定です。



実行委員会では特別決議案となった東日本大震災水産被害対策について時間をかけて議論されました

Information3

道立漁業研修所平成23年度入所式

北海道漁業の未来を担う38名が入所

5月9日（月）に鹿部町にある北海道立漁業研修所で平成23年度総合研修の入所式が行われ、来賓や父母が見守る中、全道各地から集まった38名の受講生が北海道漁業の担い手となるための一歩を踏み出しました。式では同研修所の滝沢所長が「研修では、漁業者に不可欠な技術や知識、資格を集中して身につけ、受講生同士がお互いを尊重し協力して学んでほしい。」と訓辞しました。ぎょれん函館支店の山口支店長は「受講生の皆さんには、この半年間の研修を通じて浜のニューリーダーになるという意気込みで学んでいただきたい。将来、皆さんが北海道の浜で活躍されることを期待しています。」と系統団体を代表して、受講生を激励しました。最後に受講生を代表して、別海漁協推薦の煙山翔太さんが「この研修で漁業に関する基礎的な技術や知識、資源管理や栽培漁業の意義・重要性を幅広く学ぶとともに、就業にあたっての資格を取得するため、規則を守り精一杯がんばります」と宣誓し、将来の漁業者として漁業経営や地域活動に携わるために努力していくことを誓いました。38名の受講生はこれから11月まで、仲間との共同生活を送りながら半年間の研修に全力を傾けます。



受講生代表として決意を述べる煙山さん



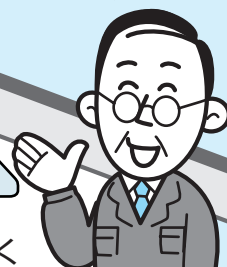
ロープワークで作られた漁業研修所特製の徽章



(株)ぎょれん設計センターが住宅に関するベストアドバイス!

なまかせ設計センター

春到来! 屋根の「かたち別」の メンテナンス



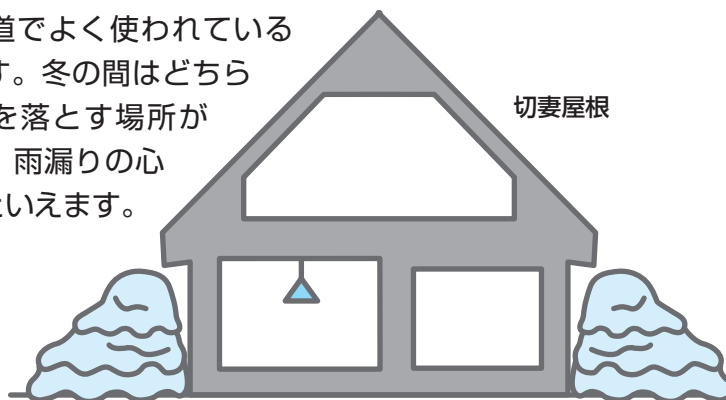
長い冬も終わり、北海道は新緑の季節を迎えました。今回は、冬を乗り越えてくれた家の屋根について、その形状ごとの注意するポイントなどをまとめてみました。

1. 片流れ屋根、切妻屋根



片流れ屋根

従来北海道でよく使われている屋根の形です。冬の間はどちらの屋根も雪を落とす場所が必要ですが、雨漏りの心配は少ないといえます。



切妻屋根

〈チェックポイント〉

- ・雪が積もっていた箇所の壁は傷んでいないか?
- ・窓、配線、配管類のチェックは必要です。⇒ 特にガス管、灯油管は大丈夫ですか?

2. 無落雪屋根 (スノーダクト)

最近ではこのタイプの屋根が増えてきました。雪を落とす場所が不要で敷地を有効利用し、屋根の中心部に水を落とす管が通っています。

〈チェックポイント〉

- ・ごみや枯葉が雨水や融雪水を流すダクトに詰まっていないか、春と秋の年2回は屋根に上って確認してください。



浜の皆さんから「おうち」の疑問、質問、お悩みを募集しています。

宛 先：札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎょれん総務企画部広報担当
F A X：011-242-3543
メール：info@gyoren.or.jp

建築・設計に関するご相談は
(株)ぎょれん設計センター
TEL：011-281-8509

浜だより

ようやく訪れた北海道の春は運動会の季節、以前、浦河町の小学校の運動会ではお弁当に、「焼いた時鮭」が入っていました。道東鮭鱒漁から帰ってくる船を待って行われる運動会は、久しぶりに家族が勢ぞろいして、春の味覚を味わうひと時でした。皆さんの地元ではどんなお弁当を広げていますか？ (編集部)

4

月27日初こうなごの水揚げがありました。魚体は極小でしたが、釜あげに酢醤油でおいしく頂きました。有り難いことです。揃った形、期待できそうです。その後、7日ほど時化続きでしたが、5日に漁り火が見えていました。これからの豊漁を願っています。

(島牧村 泉谷 泰三さん)

ホ

ックが獲れません。ホッケどこへ行ったのかな。

(島牧村 高島 里子さん)

震

災で海のほうも大変ですけれども何とかみんなで頑張りましょう。

(北斗市 小藪 隼輝さん)

春

らしくなり、ひばりの声が心を和ませてくれるような気がします。穏やかな海を眺めては、今季の漁を期待せずにはいられません。

(浜中町 安藤 房江さん)

寒

い、寒いと思っていましたが、草花は色鮮やかに春を告げています。また雑草との戦いが始まります。

(根室市 高橋 ナツ子さん)

暖

かくなつて花が咲き、気分が明るくなりますね。桜の頃はホタテの耳つりで忙しいのでツツジで花見かな。

(豊浦町 竹島 暁子さん)

稚

貝出しが終わりました。浜に出るようになってから、連休が明けるまでかかったのは初めてかもしれません。何かと今年は大変な年ですが、体に気をつけて皆さんがんばりましょう。

(初山別村 細野 京子さん)

昆

布森では春定置も始まり、活気が出てきました。6月から桹前昆布が始まるので、健康に気をつけて、豊漁を祈って頑張ります。

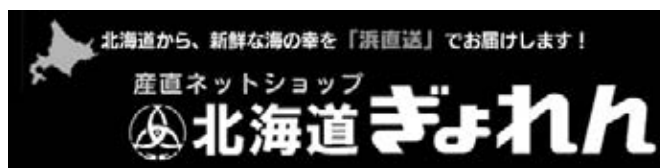
(釧路町 斉藤 志津子さん)

11pの間違ひさがしの答え



ぎょれんでは、北海道の旬の幸を産地直送でお届けするため、「産直ネットショップ北海道ぎょれん」をオープンしています。ご自宅用、贈答用どちらにも是非ご利用ください。

URL : <http://www.gyoren.net>



生産は 安全なくして 成り立たない

(社) 北海道漁船海難防止・水難救済センター



とぎ汁で海を汚さない、おいしい無洗米です。

大漁御膳

ホクレン

ぎょれん

無洗米「大漁御膳」のお求めは、お近くの漁業協同組合へ

ぎょれんグループ

専門のノウハウ 浜に密着した機動力

漁業資材・施設設備で北海道の浜をサポート

マリノサポート 株式会社

本社 TEL (011) 261-0884 函館支店 TEL (0138) 22-4146 釧路支店 TEL (0154) 41-7145 長万部営業所 TEL (01377) 2-4118

なるほど!簡単!



浜料理

鮭の昆布巻



レシピ

【材料】(4人分)

- ・昆布(1枚6センチ)・・・8枚
- ・鮭・・・昆布に合わせ4切
- ・かんぴょう・・・80センチ
- ・しょうゆ・・・大さじ4
- ・砂糖・・・大さじ4
- ・酒・・・大さじ4
- ・みりん・・・大さじ4

【作り方】

- ① 昆布は良く拭いてから水に5分間浸してもどす。
- ② かんぴょうは塩で揉んで洗い、水気を絞る。
- ③ 鮭は昆布に巻きやすくあわせ、6センチ程に切る。
- ④ 鮭を芯にして昆布を2枚あわせ巻き、かんぴょうで結ぶ。
- ⑤ 鍋に④の昆布巻を並べ、浸る程の水を入れて煮る。
- ⑥ 煮立ちしたら弱火にし、しょうゆ、砂糖、酒、みりんを入れる。
その際は一度に味付けをしないで、2～3回に分けながら、弱火でやわらかくなるまで煮詰める。

日高昆布のうまみたっぷりの一品
今回は「鮭の昆布巻」をご紹介します。今回の昆布巻は、だしをとっても食べても美味しい日高昆布を使い、作ってから2～3日寝かせると、うまみが増してきます。いろいろな魚を使って、ご家庭オリジナルの昆布巻を作ってみてはいかがでしょうか。



えりも漁協
川崎 尚子さん



鮭と昆布の
産地
間伐材使用
間伐で未来につなぐ北の森
本書の本文用紙は原料の一部に
道産間伐材を使用しております。

北の魚情報がぎゅー!北海道ぎょれんウェブサイト
www.gyoren.or.jp/